



矢代地区協力隊通信



◀ フェスで行われた「山の神お迎え火」の様子。

さいの神のようなカヤの塔は、朝早くから矢代地域づくり協議会の役員や地元ボランティアの方が協力して作りました。

点火後は、子どもたちが竹につるしたイカを焼いて楽しんでいました。

地域のこし協力隊のフィンガーです。

3月6日（日）ロッテアライリゾートを会場に、矢代地域づくり協議会と矢代区長会が主催する「矢代スノーフェス in ロッテ」が開催されました。

当日はあいにくの雪で、寒い中ではありましたが、地域の方のほかに、春から矢代地区で体験学習を行ってきた上越教育大学附属小学校の子どもたちなど、多く方の参加がありました。

フェスでは、甘酒やたけのこ汁が販売されたほか、「山の神お迎え火」と称したカヤの塔に火をつける祭事が行われ、山作業の安全と農作業の五穀豊穡が祈願されました。

甘酒やたけのこ汁は、前日から両善寺と窪松原の食生活改善推進委員が作ったもので、私もお手伝いをしました。

準備は大変でしたが、参加者の皆さんがおいしそうに食べている姿やお迎え火を見て楽しんでいる様子を見て、達成感とイベントの成功を感じることができました！

今後も矢代地域づくり協議会では、地域の皆さんが楽しめるさまざまなイベントを考えています。皆さん、お楽しみに！

矢代の伝統「麴づくり」を学びました！

「米どころ新潟」の各地には、いろいろな発酵食品を作る伝統が残っています。

矢代地区には「米麴」の伝統があり、先日、地域の方から作り方を教えていただきました。

おいしそうに炊けたお米に、麴をまぶし、室で温度管理や手返しを行いながら、じっくりと待ちます。

麴ができあがるまでには、4日間もの時間がかかり、労力も必要になりますが、その分良いものが作れることを学びました。

今回教えていただいた伝統を、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

両善寺会館には、室など麴づくりに必要な道具がそろっています。借りることもできますので、皆さんも一緒にチャレンジしてみませんか。



▲炊けたお米に麴をまぶす様子。

4月号

【矢代地区】
フィンガー陽子



〈地域のこし協力隊〉
インスタグラム

